

日植防協発 第163号
平成29年6月13日

関 係 各 位

一般社団法人 日本植物防疫協会
理事長 上路 雅子
(公 印 省 略)

シンポジウム「薬剤施用法を考える」のご案内

日頃より当協会の事業に格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当協会では、この度標記シンポジウムを別紙要領により開催することと致しました。

我が国では様々な薬剤施用法が実用化されていますが、栽培体系の変化や機械化の進展により、一部に混乱がみられる現状にあります。また、今後大規模化や省力化の促進が課題となる中、病虫害防除にあっても機械化体系への適合を考慮した一層効率的・省力的な薬剤施用法がますます重要になってくると考えられます。そこで、本シンポジウムでは、栽培管理作業の機械化の現状と展開方向を踏まえ、今後の薬剤施用法について考えていきたいと存じます。

ふるってご参加いただきますようご案内申し上げます。

参加を希望されます場合には、別添申込書により期日までに当方にお申し込み下さい。

※この開催案内は当協会ホームページ (<http://www.jppa.or.jp/>) からダウンロードできます。

シンポジウム「薬剤施用法を考える」

開催要領

1. 日時：平成 29 年 9 月 14 日（木） 10:00 ～ 17:30
2. 場所：日本教育会館「一ツ橋ホール」
東京都千代田区一ツ橋 2-6-2 TEL 03 (3230) 2831
3. 主催：一般社団法人 日本植物防疫協会
4. 趣旨：我が国では、多様な栽培体系を背景とし、防除作業の効率化に資する様々な薬剤施用法が実用化されているが、栽培体系の変化や機械化の進展により、一部に混乱がみられる現状にある。また、大規模化や省力化の促進が課題となる中、病虫害防除にあっても機械化体系への適合を考慮した一層効率的・省力的な薬剤施用法がますます重要になってくると考えられる。このため、本シンポジウムでは栽培管理作業の機械化の現状と展開方向を踏まえ、今後の薬剤施用法について考える。
5. 参集範囲：国及び都道府県の行政・試験研究機関・普及指導機関、独立行政法人、大学、JA、農薬企業、防除機企業および関係団体（定員 800 名）
6. 参加費：無料
7. プログラム（演題は仮題）

開 会

（1）薬剤施用法をめぐる論点

一般社団法人 日本植物防疫協会

（2）水稻の新しい移植栽培法の展開

農研機構 農業技術革新工学研究センター 藤岡 修 氏

— 昼 食 休 憩 —

（3）水稻初期防除における新しい粒剤施用法

Meiji Seika ファルマ株式会社 寺岡 豪 氏

（4）種子処理による省力的な薬剤施用法

バイエルクロップサイエンス株式会社 森 拓馬 氏

— 休 憩 —

（5）畑作の耕起・畝成形機の現状と薬剤施用法

農研機構 中央農業研究センター 深山 大介 氏

（6）海外での薬剤施用法の現状と国内への適用における課題

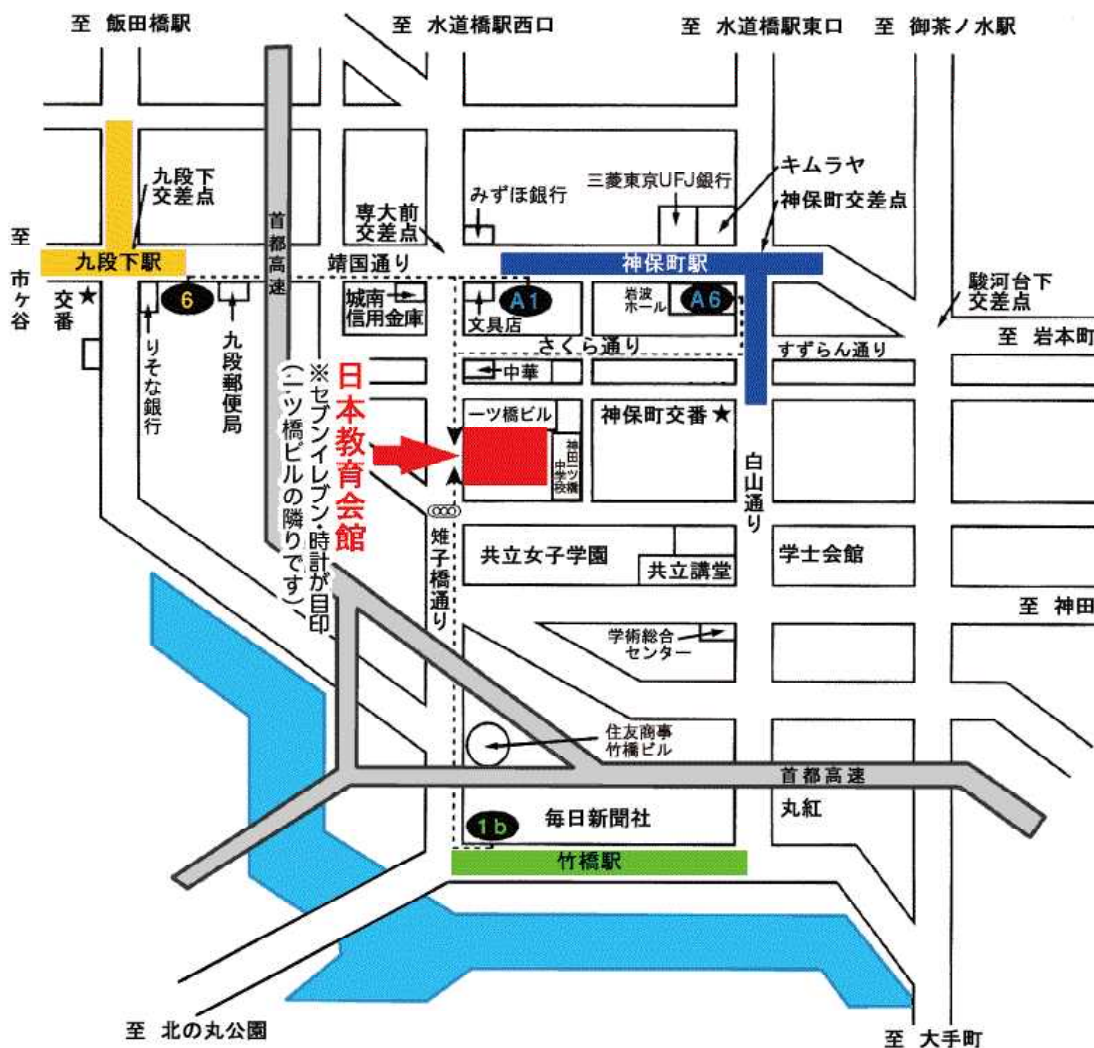
シンジェンタ ジャパン株式会社 杉井 信次 氏

（7）総合討論

閉 会

会場案内

日本教育会館「一ツ橋ホール」 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2 Tel. 03 (3230) 2831
 (道案内専用電話 03-3230-2833)



- 都営新宿線、都営三田線、東京メトロ半蔵門線神保町駅 (A1 出口) から徒歩 3 分
- 東京メトロ東西線竹橋駅 (北の丸公園側出口) から徒歩 5 分
- 東京メトロ東西線九段下駅 (6 番出口) から徒歩 7 分
- JR 総武線水道橋駅 (西口出口) から徒歩 15 分

シンポジウム「薬剤施用法を考える」 参加申込書

8月31日〆切

(期日前でも定員になり次第締め切らせていただきます。)

■一般社団法人日本植物防疫協会 支援事業部あて

FAX 03-5980-6753

所属機関名	ご氏名	備考

必ずしも所属機関や県単位でまとめてお申し込みいただく必要はありません。
万一定員超過により申込をお受けできない場合は折り返しご連絡致します。

申し込み代表者

所属

氏名

TEL